

◆編集・発行

茨城県 町長公室 秘書広聴課
〒311-3192
茨城県東茨城郡茨城町小堤1080
☎ 029-292-1111
メールアドレス
ibarakit@town.ibaraki.lg.jp

◆人口

住民基本台帳
令和4年5月末現在
男 15,737人
女 15,658人
総人口 31,395人
世帯数 13,444世帯

◆茨城町民憲章

- 1 ふるさとの自然を守り、美しい環境の町をつくりましょう。
- 1 からだをきたえ、教養を高めて、すこやかな町をつくりましょう。
- 1 隣人や家庭の愛を大切に、まごころのかよい合う町をつくりましょう。
- 1 自分の仕事に責任と誇りを持ち、活気に満ちた町をつくりましょう。
- 1 文化遺産を愛護し、先人の努力に感謝できる町をつくりましょう。

◆町の花 桜

◆町の木 梅

◆町の鳥 うぐいす

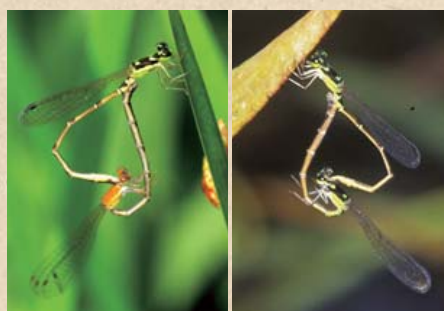
◆町の防災行政無線が聞き取れなかった場合

防災行政無線テレホンサービス
☎ 0800-800-8848
(通話料無料)

町ホームページにも放送内容を掲載しています。

◆町の情報発信中!!

- 町公式ホームページ
<https://www.town.ibaraki.lg.jp/>
- 町公式ツイッター
<https://twitter.com/IbarakiTownMati/>
- 町公式Instagram
https://www.instagram.com/townibaraki_official/



ヒヌマイトトンボの交尾
通常のメス(左) オス型メス(右)

里山に育む生きものたち

No.119 ヒヌマイトトンボ
(イトトンボ科)

学名 *Mortonagrion hirosei*
Asahina

写真・文 小菅 次男

▼新種発見から半世紀
昭和46年7月7日、沼沼の汽水域ヨシ原にて、新種のイトトンボが広瀬誠氏と筆者によって発見され、「日本最後の新種のトンボか」と言われてから半世紀が過ぎました。

▼NHKテレビの放映
発見後、生息地消滅の危機が続く、NHKはその現状を「関東ネットワーク」において、「ヒヌマイトトンボは今（昭和53年）」、「ヒヌマイトトンボを守れ（昭和55年）」として放映しました。東京のNHK本局で緊張しながら現状を訴えたことを思い出します。

▼生息地保全の苦難50年
茨城町の天然記念物に指定されて以降も生息地の危機は続き、この50年は苦難の連続でした。発見後、確認した13か所の生息地のうち、現在生息が認められるのは中石崎宮前、上石崎沼

沼大橋周辺、宮ヶ崎の勘十郎堀の3か所です。消滅の原因は埋め立て、別荘地、堤防等の開発によるものでした。

▼オス型メスの存在
平成2年、私は山口県宇部市の生息地を巡ね、そこでオス型のメス（オスの外見をしたメスのヒヌマイトトンボ）が産卵や交尾をする姿に驚きました。このタイプは対馬、香港でも確認されましたが、沼沼や他の生息地では見られず、遺伝的に別グループと考えられます。

▼東日本大震災の影響
東北の岩手・宮城・福島県の生息地7か所はいずれも汽水域のため、平成27年

の東日本大震災で全てが被害を受け消滅しました。茨城町では地盤沈下や津波による被害を受けながらも、沼沼の生息地は幸いながらも残りしましたが、大洗町砂並は生息確認が出来なくなりました。

▼生息地再生を目指す
県は、ヨシ原再生事業を宮前と西の2か所で平成16年から実施しています。国の常陸河川事務所では平成22年、27年にヒヌマイトトンボの調査をし、平成28年には砂並で幼虫放流事業を行いました。生息地の復元に努めました。

ラムサール条約湿地への登録記念講演において、故柳生博氏は「確かな未来は懐かしい風景の中にある」と述べられました。私達はヒヌマイトトンボを含め、汽水湖沼ならではの自然を、未来に伝え残す使命を託されているのです。

ちびっ子アート 沼前幼稚園



「AQUAWORLDぬめさき」